

公益財団法人セゾン文化財団

セゾン・アーティスト・イン・レジデンス、ヴィジティング・フェローの紹介


公益財団法人セゾン文化財団では、2017年度の「セゾン・アーティスト・イン・レジデンス、ヴィジティング・フェロー」の一環として、シンガポール出身のアーティストで、パフォーマンス・メーカーのチョイ・カファイをお迎えいたします。

チョイ・カファイは歴史やアイデンティティ、身体、パフォーマンス、記憶、テクノロジー等、幅広い領域に関心を持ち、アート、ダンス、演劇等、様々なジャンルから注目を集める実験的な作品を創作しています。日本では、アジアの88名の振付家やダンサーを取り上げた『Soft Machine』を Kyoto Experiment や TPAM in 横浜で発表し、また、人間の筋肉の記憶を電気信号に変換してピナ・バウシュや土方巽の動きの再現を試みたパフォーマンス作品『Notion: Dance Fiction』をフェスティバル/トーキョーで発表しています。

セゾン・アーティスト・イン・レジデンスでは、「Unbearable Darkness」と題し、舞踏のレガシー、現代における重要性や今後の可能性を探る目的で、土方巽、東北、シャーマニズムをテーマにリサーチを行います。

ヴィジティング・フェローでの滞在期間中、日本の舞台芸術の状況や背景、魅力などを発見していただくため、多くの舞台芸術関係者と交流していただけます。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

- 滞在期間 2017年7月18日(火)-8月20日(日) 予定
*8月に森下スタジオでパブリック・トークを開催予定
- 滞場所 森下スタジオ (東京都江東区森下3-5-6)
- 滞在目的 「Unbearable Darkness: 日本国内外での舞踏のレガシーと重要性」
滞在目的: 舞踏のレガシー、現代における重要性や今後の可能性を探ることを目的とし、土方巽、東北、シャーマニズムをテーマにしたリサーチを行う。

 平成29年度文化庁「アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業」

プロフィール



チョイ・カファイ

チョイ・カファイ(Choy Ka Fai) シンガポール

シンガポール生まれ。英国、Royal College of Art でデザイン・インタラク션을専攻し、修士号を取得。主な作品に、アジアの88名の振付家やダンサーを取り上げた『Soft Machine』や、人間の筋肉の記憶を電気信号に変換してピナ・バウシュや土方巽の動きの再現を試みたパフォーマンス作品『Notion: Dance Fiction』がある。

日本では、Kyoto Experiment や TPAM in 横浜、フェスティバル/トーキョー、東京都現代美術館等で作品を発表。また、Singapore Arts Festival(2012)、Tanz Im August(2013、2015)、ImPulsTanz Festival Vienna(2015)等、世界の有数のフェスティバルで作品を発表している。